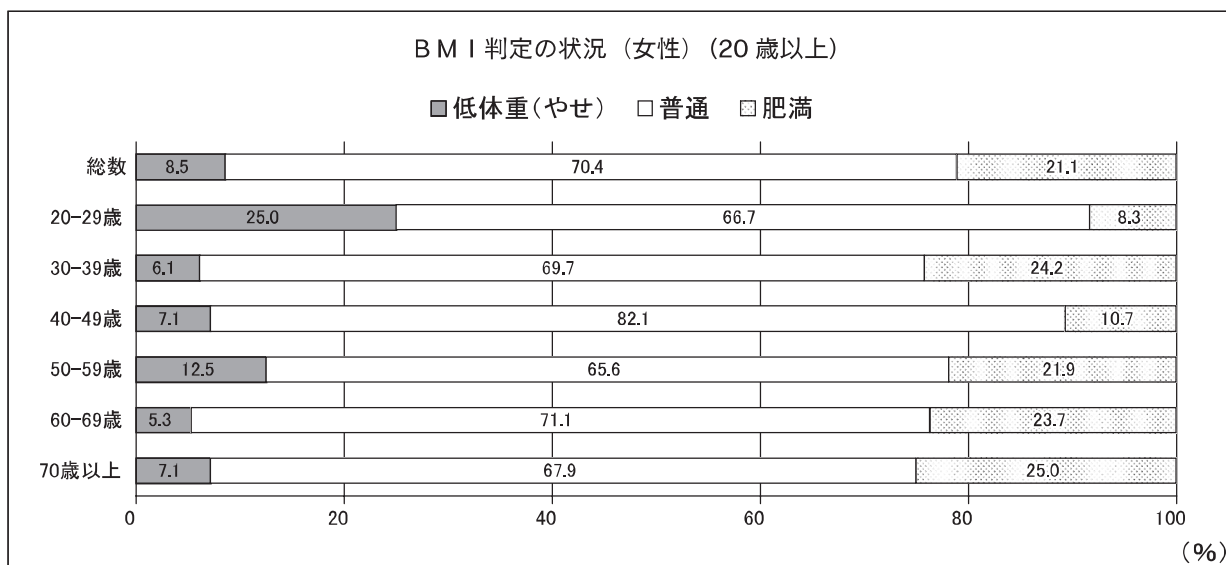
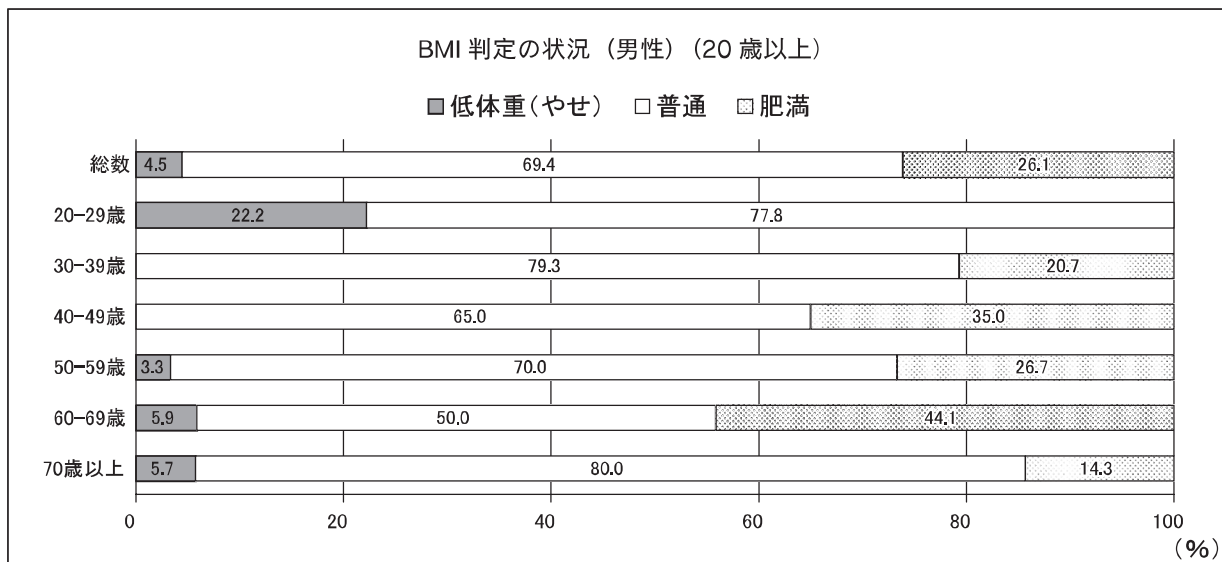


結果の概要 2

身体状況調査

1. BMI の状況
 (1) BMI 判定の状況

BMI 区分による年代別、男女別の状況をみると、肥満（BMI25 以上）の割合は、男性 26.1%、女性 21.1%であった。一方で、20 歳代では低体重（やせ BMI18.5 未満）の割合が高く、男性 22.2%、女性 25.0%であった。他の年代では、やせより肥満の割合が高かった。



※妊婦除外

図 1 BMI 判定の状況（性別、年齢階級別）

* 肥満度：BMI (Body Mass Index) を用いて判定
 $BMI = \text{体重 [kg]} / (\text{身長 [m]}^2)$ により算出
 BMI < 18.5 低体重 (やせ)
 18.5 ≤ BMI < 25 普通体重 (正常)
 BMI ≥ 25 肥満

(2) 「肥満」及び「やせ」の状況

肥満者（BMI \geq 25）の割合は、平成16年と比較し、男女とも減少した。一方、男性60歳代と女性30歳代、50歳代では、全国と比較すると肥満者の割合が高かった。一方、やせの者（BMI \geq 18.5未満）の割合は、平成16年と比較すると、男女とも増加した。特に20歳代の男女で増加している。

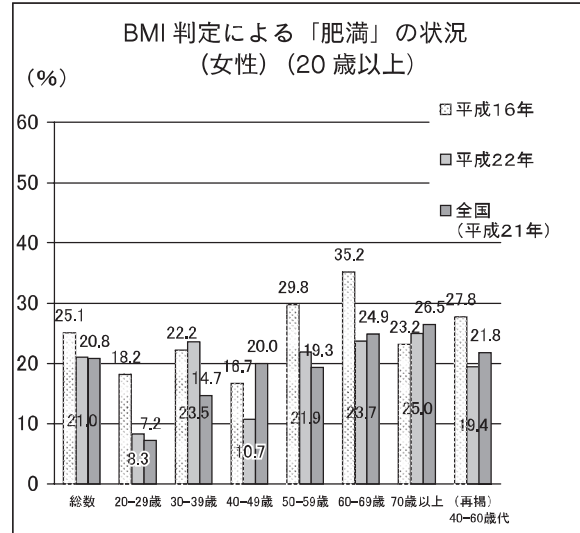
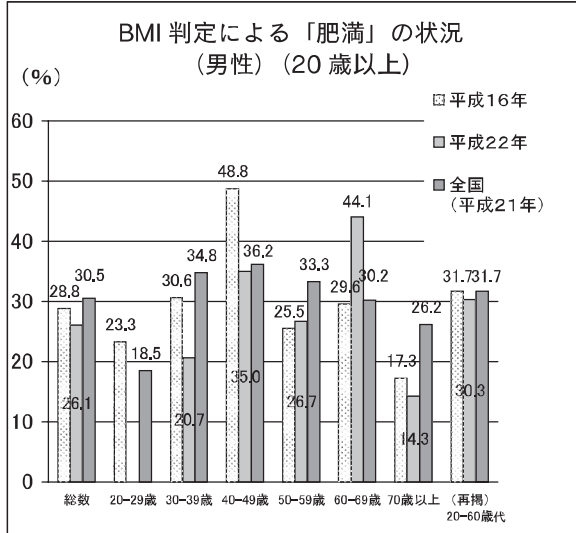


図2 BMI判定による「肥満」の状況 (性別、平成16年、全国との比較)

※妊婦除外

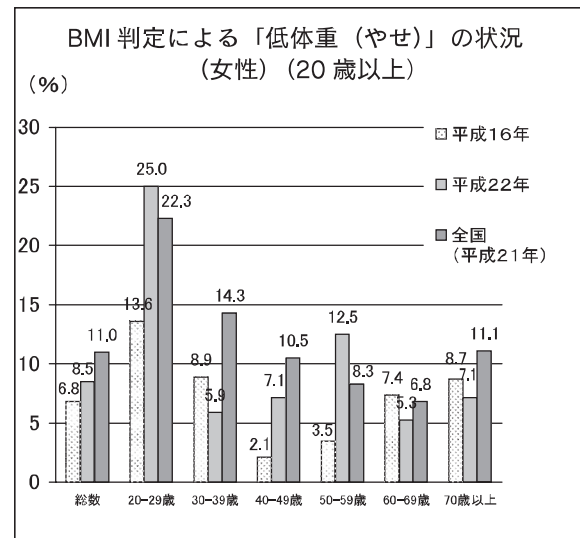
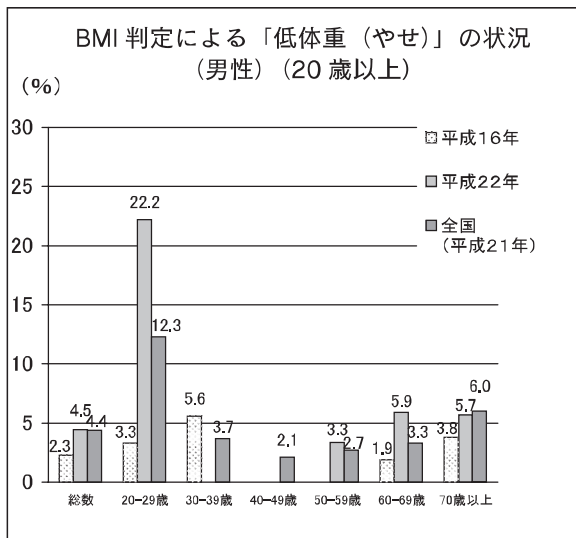


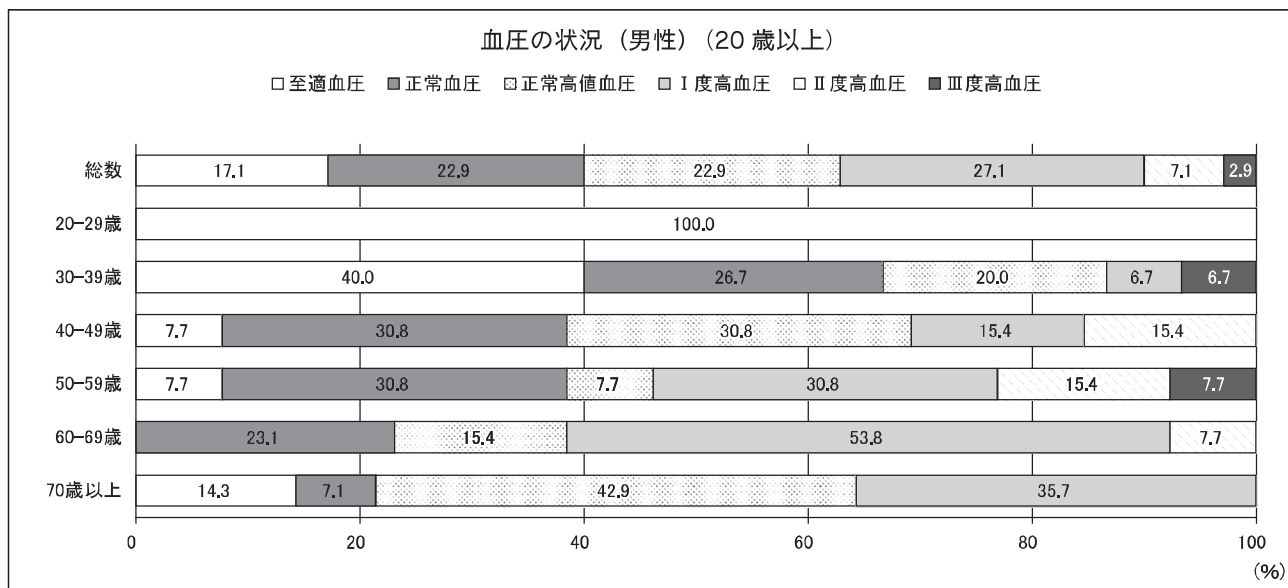
図3 BMI判定による「低体重 (やせ)」の状況 (性別、平成16年、全国との比較)

※妊婦除外

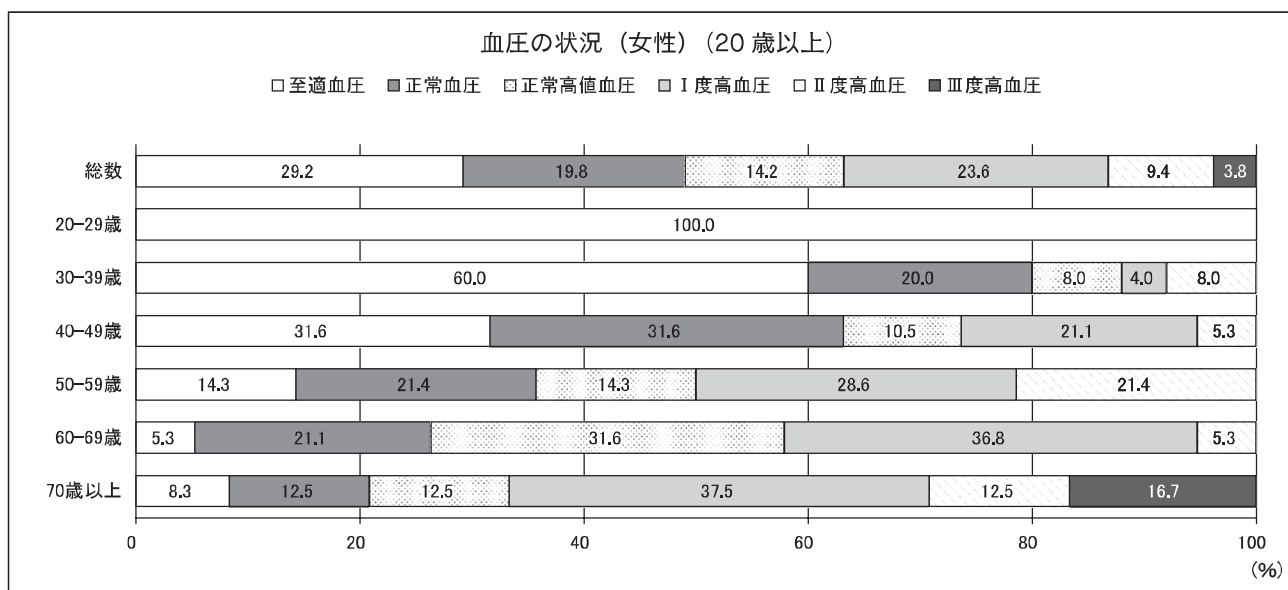
(参考) 「元気県ぐんま 21」追加計画の目標
 肥満者の割合
 目標値：20～60歳代男性 15%
 40～60歳代女性 20%
 やせの割合
 目標値：20代女性 15%以下

2. 血圧の状況

2回の血圧測定の平均値が、高血圧に区分される人（Ⅰ～Ⅲ度高血圧）の割合は、男性では37.1%、女性では36.8%であった。また、正常高値血圧は、男性で22.9%、女性で14.2%であった。



※血圧を下げる薬服用者除外



※妊婦・血圧を下げる薬服用者除外

図4 血圧の状況（性別、年齢階級別）

* 血圧区分：2回の測定値の平均値（「日本高血圧学会（2009年）による血圧の分類」より）

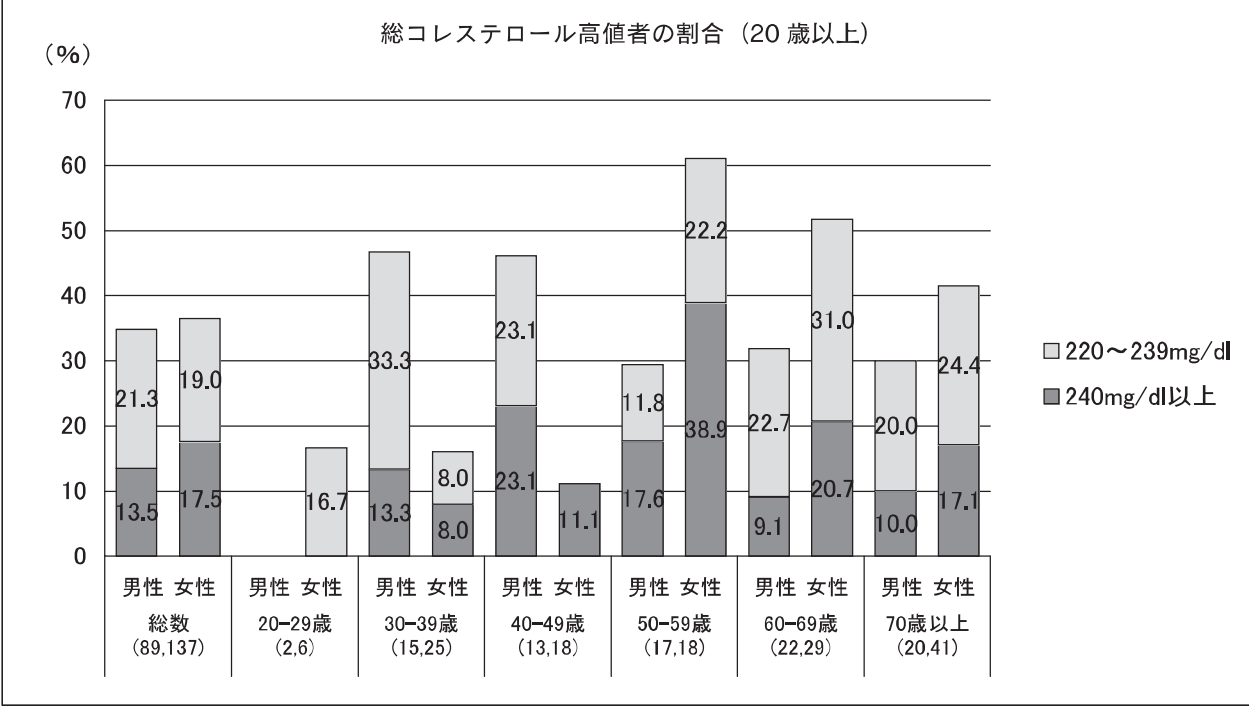
収縮期血圧 (mmHg)	拡張期血圧 (mmHg)	分類
< 120	かつ < 80	至適血圧
< 130	かつ < 85	正常血圧
130 ~ 139	または 85 ~ 89	正常高値血圧
140 ~ 159	または 90 ~ 99	I度高血圧
160 ~ 179	または 100 ~ 109	II度高血圧
≥ 180	または ≥ 110	III度高血圧
≥ 140	かつ < 90	収縮期高血圧

3. 血液検査の状況

(1) 総コレステロール、HDL コレステロール

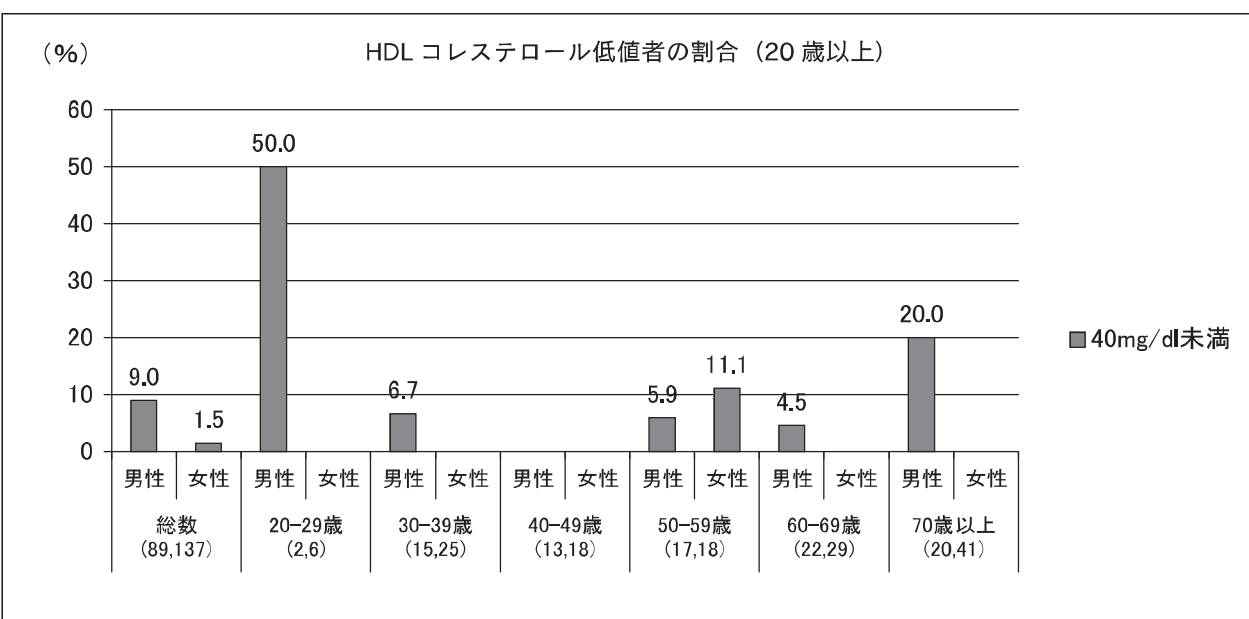
総コレステロールについて、高値（220mg/dl 以上）を示す人の割合は、男性 34.8%、女性 36.5%であった。男性では 30～40 代、女性では 50～60 代が高かった。

一方、HDL コレステロールが、低値（40mg/dl 未満）を示す人の割合は、男性 9.0%、女性 1.5%であった。（服薬者除外）



注）コレステロールを下げる薬または中性脂肪（トリグリセライド）を下げる薬服用者除外

図5 総コレステロール高値者の割合（性別、年齢階級別）



注）コレステロールを下げる薬または中性脂肪（トリグリセライド）を下げる薬服用者除外

図6 HDL コレステロール低値者の割合（性別、年齢階級別）

(2) 中性脂肪（トリグリセライド）

中性脂肪（トリグリセライド）について、高値（150mg/dl以上）を示す人の割合は、男性で43.8%、女性で32.1%であった。

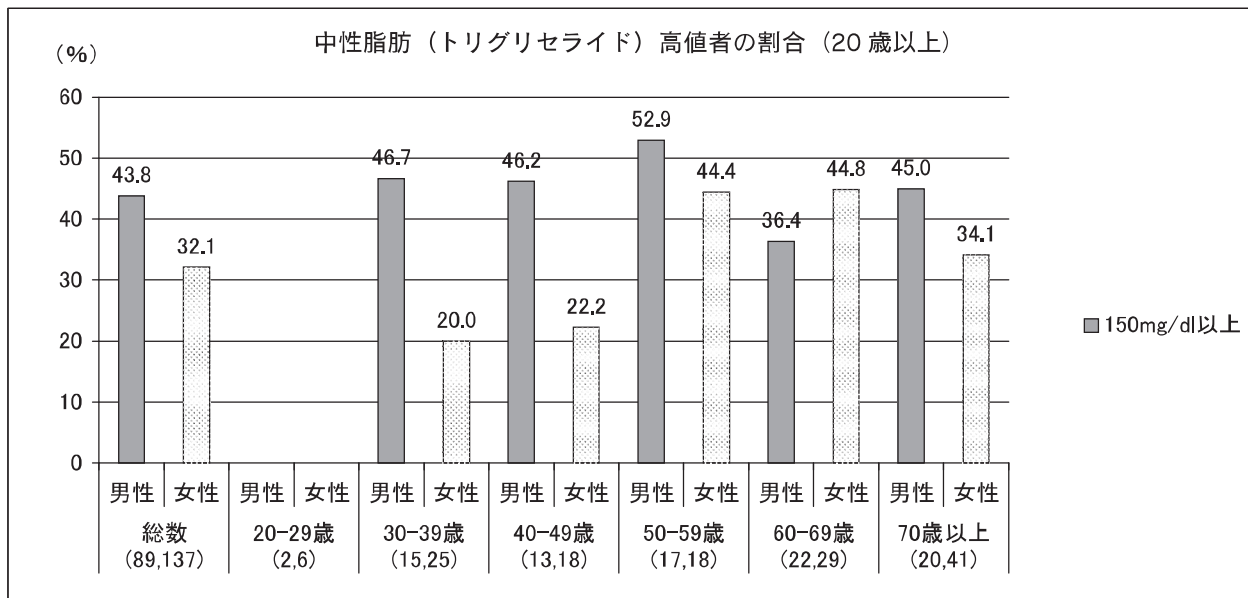


図7 中性脂肪（トリグリセライド）高値者の割合（性別、年齢階級別）

(3) 血色素量

血色素量について、低値（男性:14.0g/dl未満、女性:12.0g/dl未満）を示す人の割合は、男性26.9%、女性18.7%であった。男性では60～70代、女性では20代が高かった。

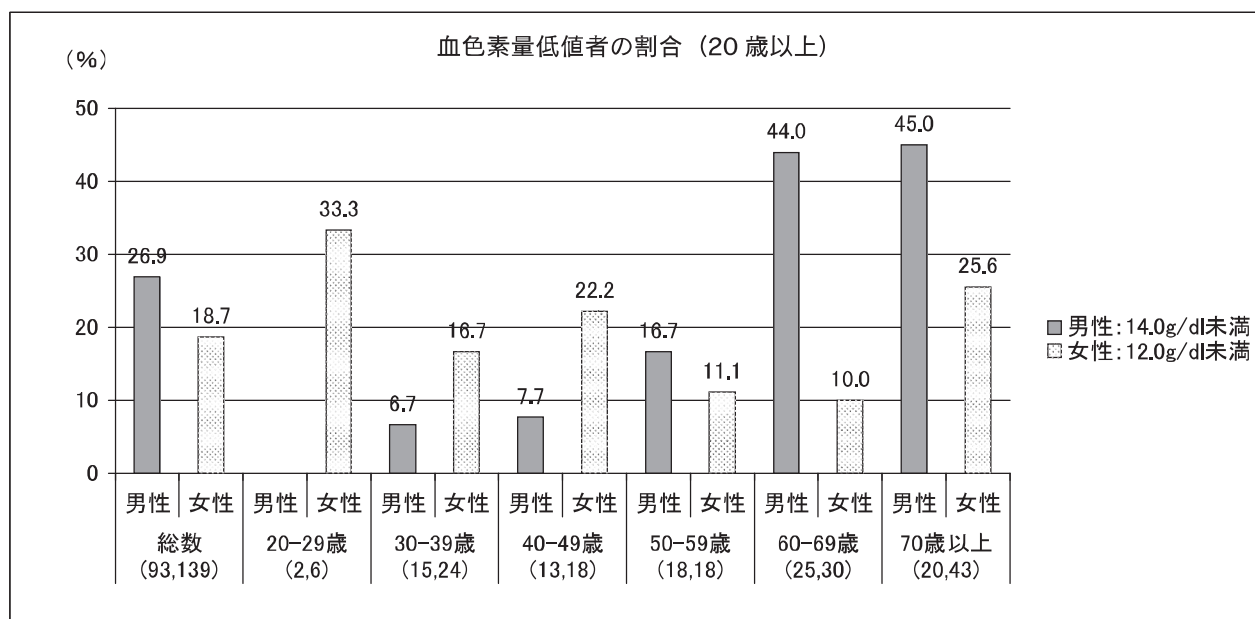


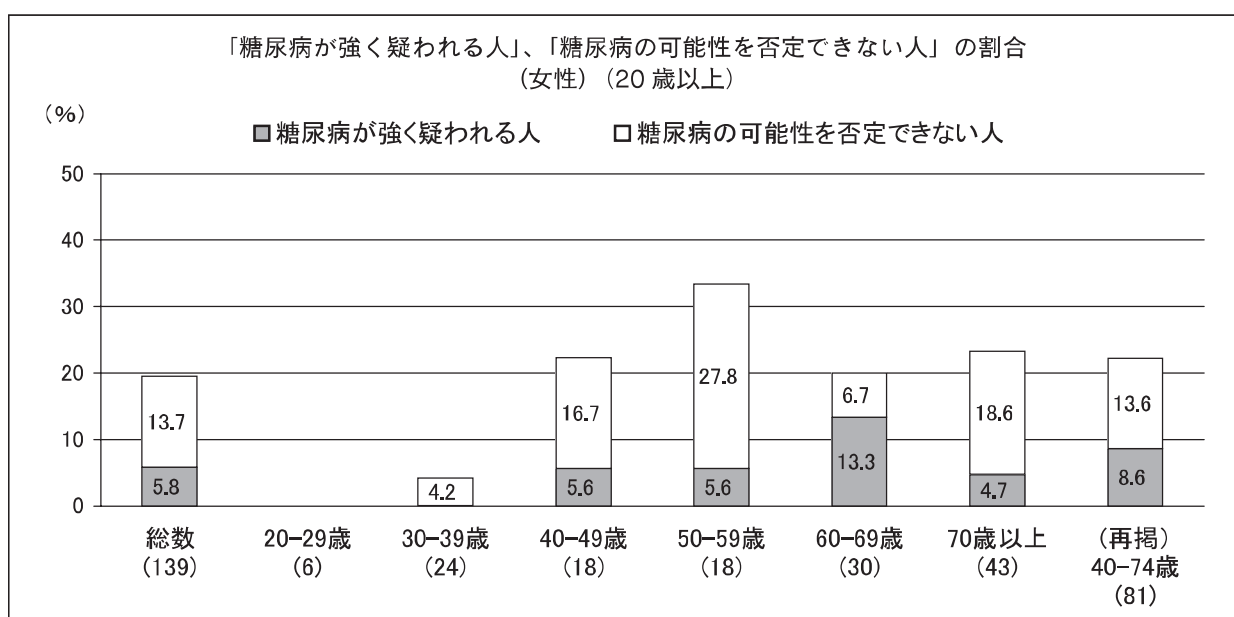
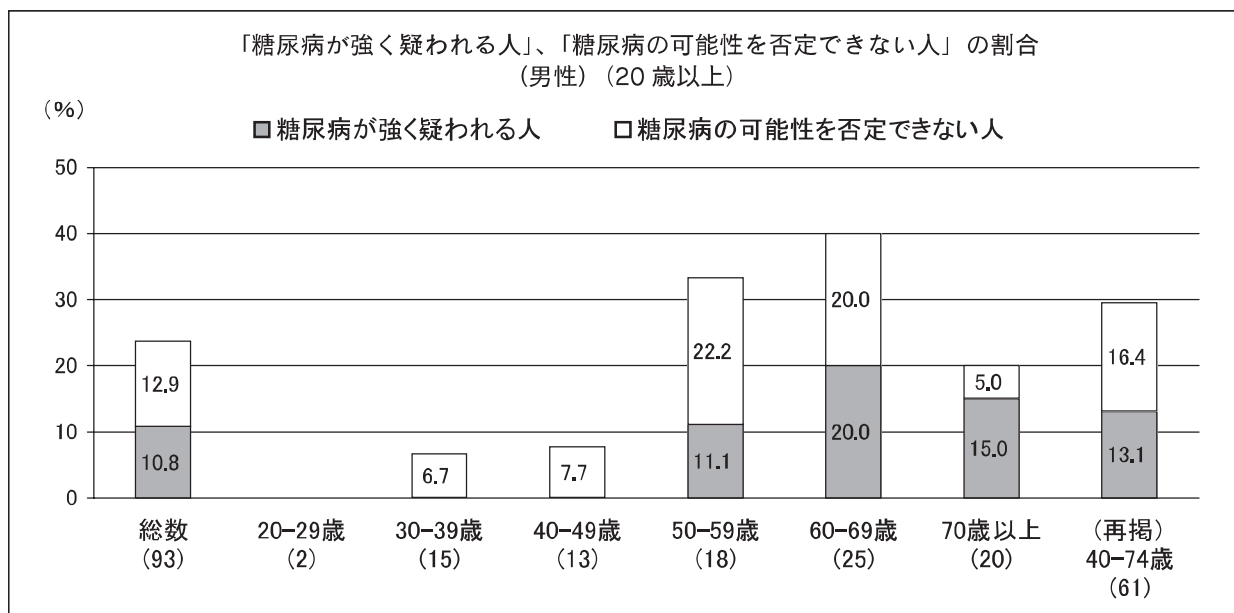
図8 血色素量低値者の割合（性別、年齢階級別）

4. 生活習慣病等の状況

(1) 糖尿病の状況

「糖尿病が強く疑われる人」と「糖尿病の可能性を否定できない人」を合わせると、男性が23.7%、女性が19.5%であった。

男性では50～60歳代が、女性では50歳代が、30%以上で高かった。



注) 妊婦除外

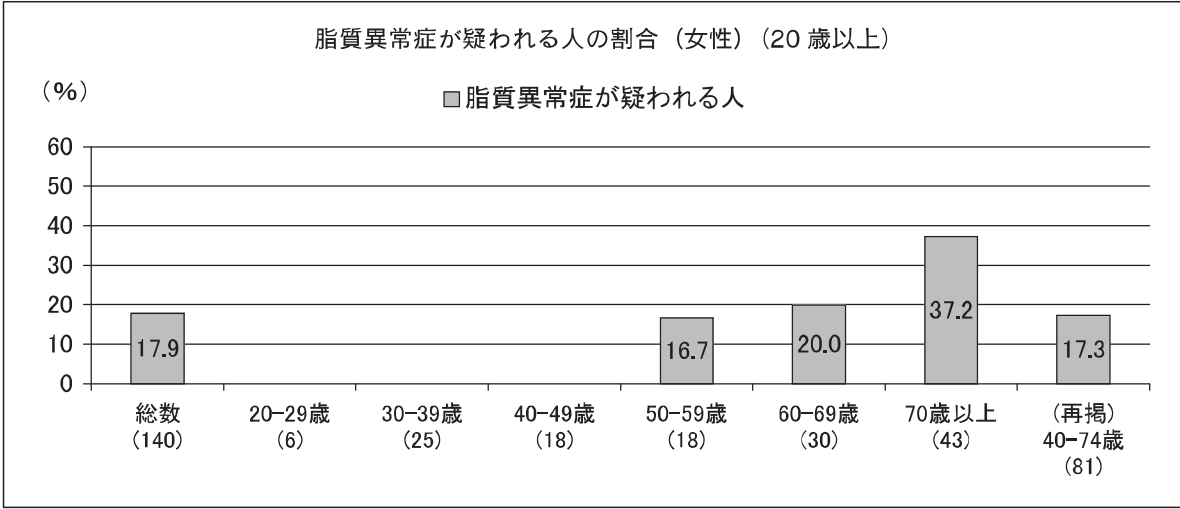
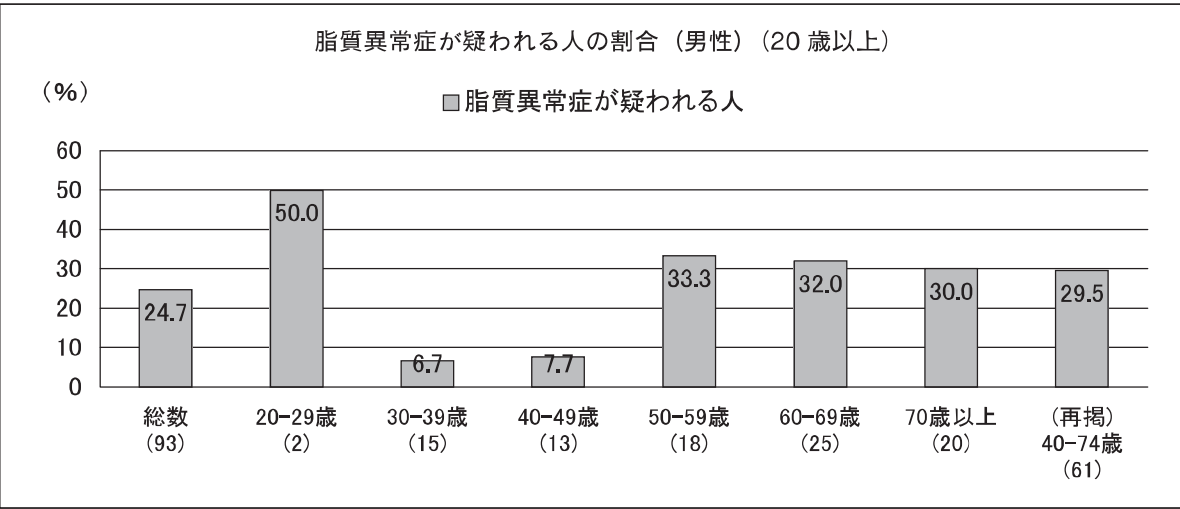
図9 「糖尿病が強く疑われる人」、「糖尿病の可能性を否定できない人」の割合 (性別、年齢階級別)

*「糖尿病が強く疑われる人」、「糖尿病の可能性を否定できない人」の判定

- ①「糖尿病が強く疑われる人」とは、ヘモグロビンA1cの値が6.1%以上、または、質問票で「インスリン注射または血糖を下げる薬」の使用有と回答した人。
- ②「糖尿病の可能性を否定できない人」とは、5.6%以上6.1%未満で、①以外の人。

(2) 脂質異常症の状況

「脂質異常症が疑われる人」の割合は、男性で 24.7%、女性で 17.9%であった。男女とも 50 代から増加している。



注) 妊婦除外

図 10 脂質異常症が疑われる人の割合（性別、年齢階級別）

*「脂質異常症が疑われる人」の判定
 県民健康・栄養調査の血液検査では、空腹時採血が困難のため、脂質異常症の診断基準項目である中性脂肪による判定は行わず、次のとおりとした。
 ・「脂質異常症が疑われる人」
 HDLコレステロールが40mg/dl未満、もしくはコレステロールを下げる薬または中性脂肪(トリグリセライド)を下げる薬を服用している人

(3) メタボリックシンドロームの状況

「強く疑われる人」は、男性 23.1%、女性 6.9%、「予備群と考えられる人」は、男性 24.2%、女性 4.6%であり、男性の 2 人に 1 人、女性の 10 人に 1 人が、メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）が強く疑われる人又は予備群と考えられる人であった。特に男性では、50 歳代から急増している。

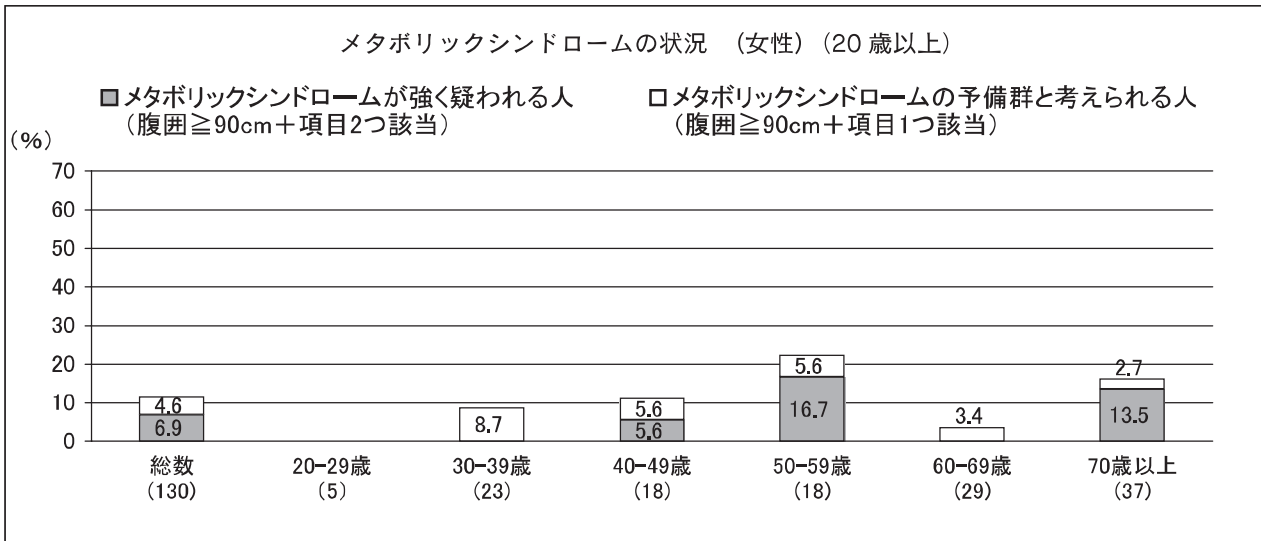
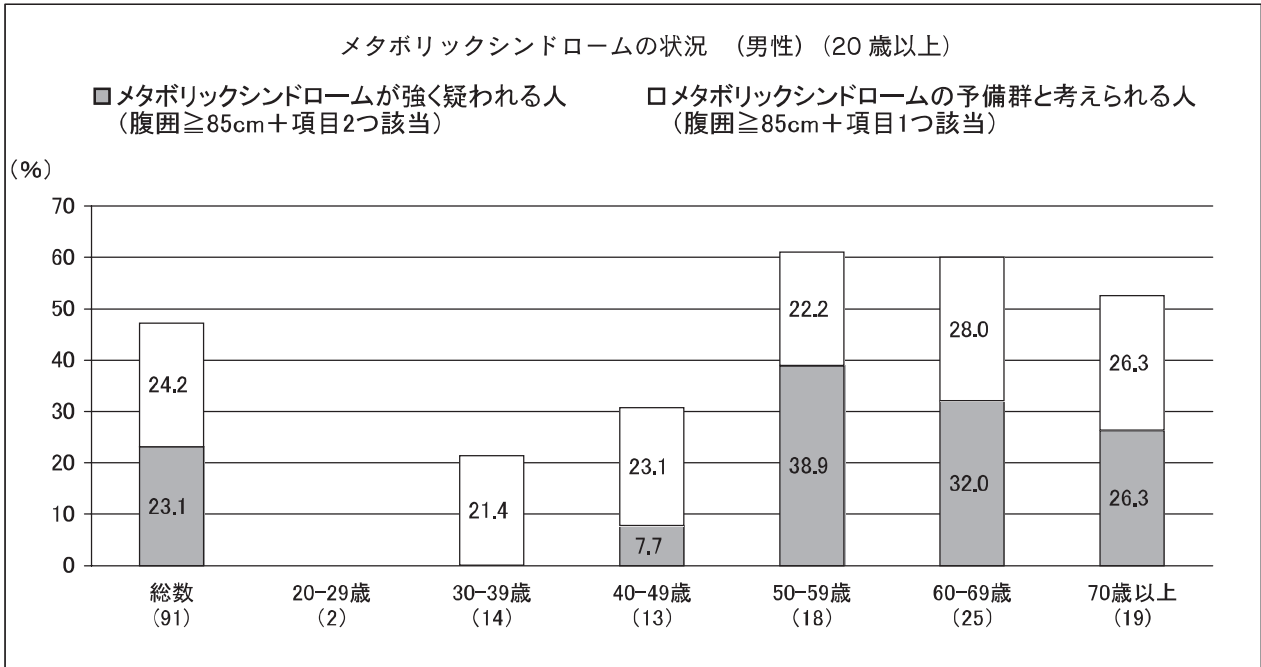


図 11 メタボリックシンドロームの状況（性別、年齢階級別）

*「メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）が強く疑われる人」、「メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の予備群と考えられる人」の判定

- ①「メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）が強く疑われる人」とは、腹囲が男性85cm、女性90cm以上で、3つの項目（血中脂質、血圧、血糖）のうち2つ以上の項目に該当する人。
- ②「メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の予備群と考えられる人」とは、腹囲が男性85cm、女性90cm以上で、3つの項目（血中脂質、血圧、血糖）のうち1つに該当する人。

5. 運動習慣の状況

(1) 歩数の状況

歩数の平均値は、男性7,316歩、女性5,968歩であった。年次推移をみると、男性では横ばいであるが、女性は減少している。

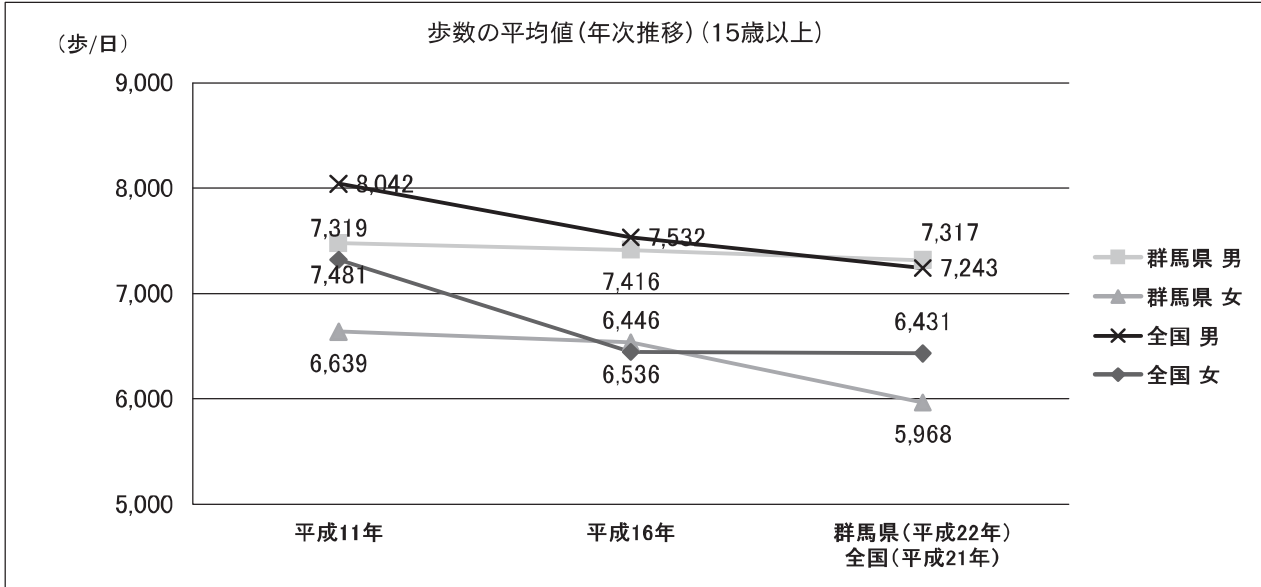


図12 歩数の平均値(性別、年次推移、全国との比較)

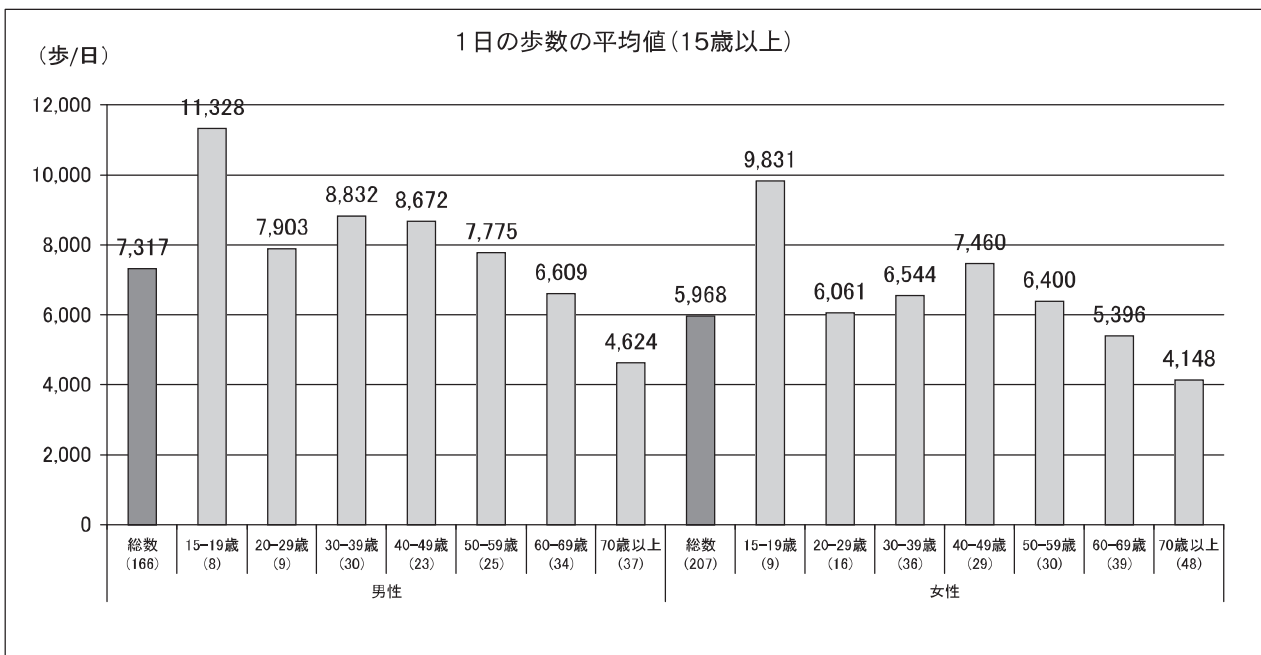


図13 1日の歩数の平均値(性別、年齢階級別)

(参考) 「元気県ぐんま21追加計画」の目標
日常生活における歩数
目標値：男性 8,500歩
女性 7,700歩

(2) 運動習慣の状況

身体状況調査票による運動習慣の状況を見ると、「運動習慣のある人」※の割合は、男性35.6%、女性29.1%であった。平成16年と比較すると、男女とも運動習慣のある人の割合は、増加している。

※運動習慣のある人：1回30分以上の運動を週2日以上実施し、1年以上継続している人

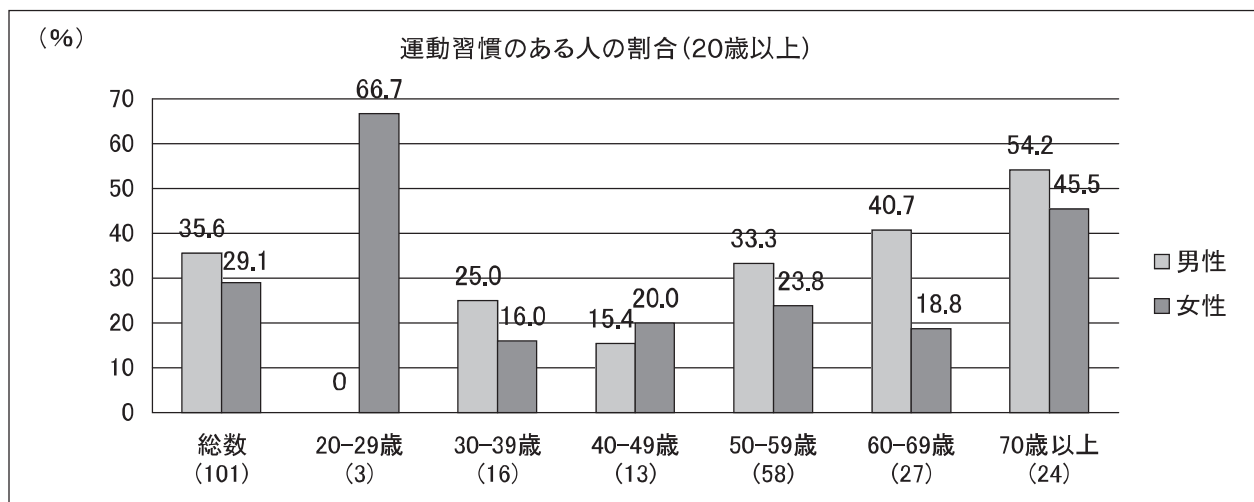


図14 運動習慣のある人の割合 (性別、年齢階級別)

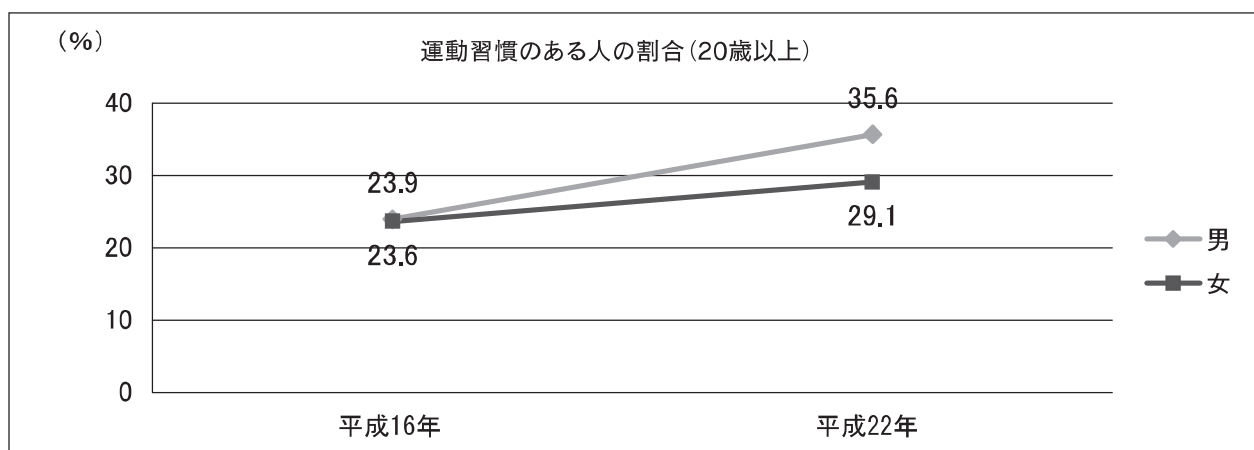


図15 運動習慣のある人の割合 (性別、平成16年との比較)